

令和6年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立雪谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・すべての学年において3観点で目標値、区平均、全国平均を上回っている。特に、「思考・判断・表現」の観点においては、大幅に上回っている。これは、自力解決の時間を確保し、互いの考えを伝え深め合う問題解決型の授業を継続していることによるものと考えられる。
- ・「図形」の領域は、非常に高い正答率である。これもまた、問題解決型の授業や、児童が意欲的に繰り返し学習をしている成果が出ていると考えられる。

(2) 課題

- ・概数の表し方の理解が十分ではない児童が見られる。
- ・小数や分数で数直線上に示された数値の読み取りができていない児童が見られる。
- ・長さや重さ、時刻と時間の理解が十分でない児童が見られる。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」の観点は、目標値を上回っているとはいえ、3観点の中では1番低い値となっている。自身の学習状況を把握したり、既習事項を振り返ったりする機会を充実させる必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

※ ◎…目標値を上回った。 ○…目標値と同程度。 △…目標値を下回った。

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	◎		
第5学年	◎	◎	
第6学年	◎	◎	◎

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値より、大幅に上回っている。区平均、全国平均を大きく上回っている。	・目標値より、大幅に上回っている。区平均を大きく上回っている。全国平均を大幅に上回っている。	・目標値より、大幅に上回っている。区平均、全国平均を大きく上回っている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値より、大幅に上回っている。区平均、全国平均を大きく上回っている。	・目標値より、大幅に上回っている。区平均を大きく上回っている。全国平均を大幅に上回っている。	・目標値より、大幅に上回っている。区平均を大きく上回っている。全国平均を大幅に上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・既習の学習内容をより定着できるよう、プリントなどを活用する。 (指導計画・学習習慣) ・タブレット端末での学習を実施し、児童のさらなる学力の定着を図る。 (学習習慣) ・長さやかさなど、身の回りの事柄による体験を通して、単位を適切に選択できるようにする。 (授業構成) ・長さやかさの単位を適切に選択して、測定したり、比べたりする。(授業構成) ・計算カードやタブレット端末での学習を実施し、正解まで取り組ませ、問題数を増やしたり、間違いをそのままにしたりしないことで学習を定着させる。 (学習習慣) ・既習の学習内容をより定着できるよう、計算カード、を活用する。(指導計画・学習習慣)	・身の回りにある具体物を探したり、使ったりする活動を取り入れたりして、理解を促す。 (授業構成) ・立式がしやすいように、経験や生活と結び付けた提示の仕方を工夫する。 (授業構成) ・考えたことを説明したり、友達との対話的な学びによって、理解を深めたりして、問題場面を解決できるようにする。(授業構成) ・身の回りにある具体物を探す活動を取り入れ、理解を促す。(授業構成) ・具体物から半具体物、数量に考えを移行することで、スムーズに思考できるようにする。(授業構成) ・日常での場面と結びつけながら立式ができるよう半具体物で表したり、経験と結び付けたりするように、提示の仕方を工夫する。 (授業構成) ・ブロックなどを操作したり、図を用いて考えさせたりして、理解を促す。 (授業構成)	・長さやかさの学習では活動を通して感覚を養い、楽しんで活動できるようにする。 (指導計画・授業構成) ・デジタル教科書を積極的に活用して、苦手意識のある児童たちも関心をもてるように工夫する。 (授業展開) ・考えた過程を通して、日常生活に生かそうとする良さや学習に活用できることを実感させる。 (指導計画・授業構成) ・タブレット端末での学習を取り入れる。繰り返し問題に取り組んだり、すぐに正誤を確かめたりすることで、学習問題に主体的に取り組めるようする。 (授業構成) ・具体物や図などを用いて考えた過程を通して、日常生活に生かそうとする良さや楽しさを実感させる。 (指導計画・授業構成) ・量の学習では活動を通して、量感覚を養い、楽しんで活動できるようにする。 (指導計画・授業構成) ・数量の関係がつかめない時や解決の仕方が分からない時には、図に表すとよいことに気付かせる。 (授業構成・学習習慣)

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 正確に問題内容を把握して答えを導き出すために、問題文を正しく読み、必要な数値情報を把握するよう指導する。 (指導計画・授業構成) ・ 既習の学習内容がより定着するように、ドリルパークなどを活用し、繰り返し学習を継続して行う。 (指導計画・学習習慣) ・ 既習の知識、技能と結び付けながら、除法などの新しい計算や図形などが理解できるよう指導する。 (指導計画・授業構成) ・ 分度器やコンパスなどの用具を正しく扱うことができるように習熟を図る時間を設ける。(授業展開)	・ 考えを広げ、新たな事柄に気付けるように、表現の手段を選択したり、視点を明確にしたりして、考えを伝え合ったり検討したりする時間を確保する。 (指導計画・授業構成) ・ 自分の考えを説明する際には、既習事項や算数用語を用いて、分かりやすく簡潔に説明する力を身に付ける指導をしていく。 (指導計画・授業構成) ・ 正しく演算決定ができるよう、問題文の読み取り方を指導したり、既習事項を確認したりする。また、図に表したり、具体物を使用して文章問題の場面設定を視覚的に把握したり、順序立てて考えたりする機会を設定する。(授業構成)	・ 児童が主体的に学習に取り組む、達成感を味わえるように、課題設定や問題提示の仕方を工夫する。また、見通しをもって適切な考えや解決方法に導いていくよう指導する。 (指導計画・授業構成) ・ 日常生活との関連を図りながら、体感させたり、想起させたりしながら、時刻や時間の感覚をもたせられるよう授業を工夫する。 (指導計画・授業構成) ・ 長さ、面積等の量感を養ったり、学んだことを日常生活や次の学習場面に生かしたりしていく態度を養っていけるように授業を工夫する。 (指導計画・授業構成)

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・小数や分数のしくみを数直線上で確認する。 (授業展開) ・既習事項の習熟を図るために、タブドリ Live!やドリルパーク等を活用する。 (指導計画) ・学習の系統性を児童が意識できるように、新しい単元に入る際には、前学年で学習した関連する内容を復習する時間を確保する。 (授業展開) ・問題文から正しく立式できる力を育てるために、児童が有用感を実感しながら問題場面の数量の関係を数直線図や4マス関係表などを問題解決のために使えるように、意図的に例示する。 (指導方法)	・自力解決の時間を十分に確保し、自分の考えを、言葉、数、式、図、数直線、記号、表、グラフなどを用いて表し、説明できるようにする。 (授業展開) ・他者の考えと似ているところ、違うところを比べ、よりよい考えの再構築を図る。 (授業展開) ・数直線のかき方を確認して、数の関係を押さえて立式し、説明し合う活動を授業で多く取り入れる。 (授業展開) ・1つの問題でも様々なやり方を考えさせて、それを説明し合うことによって多様な考えを知り、考えが深まるように授業の展開を工夫する。 (授業展開)	・デジタル教科書を積極的に活用して、イメージをもちやすくし、苦手意識のある児童たちも関心をもてるように工夫する。 (授業展開) ・割合や比を生活で使う場面に置き換えたり、学んだことを日常生活や次の学習場面に生かしたりしていく態度を養っていきけるように授業を工夫する。 (指導計画・授業構成) ・粘り強く学習に取り組む児童に育てるために、結果主義ではなく児童一人一人が考えた過程を大切にしたい指導を行う。(指導観)

4 今年度の授業改善プランの成果と課題

(1) 成果

【低学年】

- ・水のかさや長さでは、具体物を使った体験的な活動を行ったことで、量の感覚を養い、楽しんで活動することができた。
- ・どのようにして答えを導き出したのかペアや全体に発言することで、理解を深めることができた。
- ・タブレット学習を取り入れたことで、次々と課題に取り組めるため、問題演習の時間を十分に取ることができた。
- ・計算カードやタブレット端末での学習を実施したことで、問題数を増やしたり、瞬時に成否が分かり間違いをそのままにしたりしないことで学習を定着させることができた。
- ・図に表したり、具体物を使用して文章問題の場面設定を視覚的に把握したり、順序立てて考えたりする機会を作ることができた。

【中学年】

- ・1年間を通して、習熟に合わせて、6つのクラスに分けて指導することができた。
- ・自分の考えを、言葉、数、式、図、数直線、記号、表、グラフなど、紀州事項を使って表そうとすることができるようになってきた。
- ・習熟に合わせて児童がコースを選択し、6クラス展開での習熟度別の学習が年間通して行え

た。

- ・既習事項を基に考えたり、説明したりすることができた。

【高学年】

- ・小数や分数を数直線上で確認する時間を設けたことで、小数や分数のしくみを理解につながった。
- ・タブドリ Live!やドリルパークを活用し、反復練習を行ったことで、知識・技能がより定着した。
- ・単元の導入時に既習事項を振り返ることで、児童が学習の系統性を意識して授業に臨む姿が見られた。
- ・数直線や4マス関係表を意図的に例示したことで、有用感を実感しながら問題場面の数量関係理解のために数直線や4マス関係表を使う児童の姿が見られた。
- ・1つの問題でも様々なやり方を考えさせて、それを説明し合うことによって多様な考えをもつことができた。
- ・デジタル教科書を積極的に活用したことで、イメージをもちやすくし、苦手意識のある児童たちも関心をもてるようになった。
- ・振り返りの際に意図的に場面を例示したことで、学習内容を日常生活に帰着する意識が高まった。

(2) 課題

【低学年】

- ・ブロック操作など、具体物操作にもっと時間をかけるべきだった。
- ・10の合成や分解など、基礎的な内容にもっと時間をかけて習熟を図るべきだった。
- ・タブレット学習は、単元によっては活用しにくいものがあつたので、使い分けが必要だと感じた。

【中学年】

- ・正しく演算決定ができるよう、問題文の読み取り方を指導したが、読み取りの力に個人差があり難しかった。
- ・コンパスを正しく扱えるよう指導したが、ずれてしまうなど難しさを感じている児童が一定数いた。
- ・基本的な四則計算が身に付いていない児童は、わり算の筆算や掛け算九九に苦手意識をもっているようだった。
- ・繰り返し指導をしたり、習熟をはかったりしたが、分度器の使い方や目盛りの読み方を間違えてしまう児童が一定数いた。

【高学年】

- ・自力解決の時間を多くとったが、自分の考えを、言葉、数、式、図、数直線、記号、表、グラフなどを用いて表し、説明するのが難しい児童の姿も見られた。
- ・数の関係を押さえて立式し、説明し合う活動を授業で多く取り入れたが、数直線のかき方を理解していない児童の姿も見られた。
- ・結果主義ではなく児童一人一人が考えた過程を大切にしたい指導を行ったが、粘り強く学習に取り組めない児童の姿も見られた。